

● ヘルパンギーナ・手足口病

どちらもエンテロウイルスが原因です。潜伏期間は2～5日間で、発病2日前から他人への感染力があります。飛沫感染（咳、くしゃみや会話などによる感染）と糞口感染（患児の糞便に接触した手から口への感染）があります。繰り返しかかることもあります。

[症状]

ヘルパンギーナは突然の高熱が特徴で、発熱からやや遅れてのどの奥に水泡ができます（歯茎や舌・頬にはできません）。発熱は1～4日、口内炎は4～5日で消えます。



手足口病は発熱の頻度は高くありません（30%位）。口の中と手足の先にほぼ同時に水泡が現れますが、手と足、手と口のみの場合などや、お尻・ひじ・ひざにでることもあります。水泡は1週間以内に消えます。



手の発疹



臀部～大腿にみられた発疹

[治療]

ウイルス感染なので抗生物質は無効で自然に治りますが、口内炎がひどいとつばを飲むこともできずによだれが多くなり、脱水を起こすこともあります。温かいものや塩辛いもの、酸味の強いものは痛みを感じるので、イオン飲料などを少しずつ与えましょう。



手の発疹



口腔の発疹

[予防]

エンテロウイルスはのどから1～2週間、便からは3～5週間も排泄されます。これだけの期間隔離することは現実には不可能で、解熱さえすれば登園・登校は可能です。排泄物に触れた人は手洗いをしっかりしましょう。

● プール熱（咽頭結膜熱）

アデノウイルスが原因で扁桃炎と結膜炎が同時に起きます。ウイルスに汚染された水からまず結膜に感染して、咽頭（=のど）にも及んでプール熱として発症します。プールに関係ない流行もあります。

[症状] 高熱・首のリンパ節や、のどの痛み・目やになどです。発熱は3～5日程度と長引く傾向があり、成人にも感染することがあります。

[診断] のどや目を綿棒でこすり15分で結果が出ます。

[治療] ウイルス感染なので抗生物質は無効で自然に治ります。

[予防] せき・くしゃみ、直接の接触や水を介して感染します。そのため手洗いやうがいなどの励行、プールでは十分にシャワーを浴びてタオルを共有しないことが大切です。

発熱などの症状が無くなって2日経過したら登校・登園が可能です。



● その他の夏かぜ

エンテロウイルスやアデノウイルスが主な原因です。発熱とさまざまな発疹（エンテロウイルス）や胃腸症状（アデノウイルス）が主で一般に軽症ですが、時に無菌性髄膜炎を起こすこともあります。

[無菌性髄膜炎]

エンテロウイルス（手足口病やヘルパンギーナの原因とは違うタイプ）とおたふくウイルスが主な原因です。発熱・頭痛・嘔吐が主な症状で、細菌による髄膜炎と比べると軽く済みますが入院が必要です。

● 水イボ（伝染性軟属腫）

[症状]

表面がつるつるして中央が少しくぼんだ小さなイボです。中には水イボウイルスがたくさん含まれていて、掻き壊してつぶれると周囲に広がってしまいます。なお水イボウイルスは毛に感染すると考えられているため身体には発症しても、毛のない手のひらや足の裏にはできません。

[治療]

治療をしなくても数ヶ月で自然に治ることもあるため放置することもあります。しかしなかにはかゆみが強く掻き壊して無数に増えてしまったケース・周囲の湿疹が悪化したケース・とびひを併発したケースもあります。このため（親御さんの同意があれば）数が少ないうちにピンセットでイボを摘み取るのが妥当ではないかと思えます。



典型的な丘疹が体幹に散在

[予防]

幼稚園や学校を休む必要はありません。プールの中ではウイルスは希釈されていて、一緒に入っただけで感染することはありません。しかし身体が接触することやタオルやビート板を介した感染も起こるため、目立つ部分だけでも除去してからプールに入るべきでしょう。また兄弟同士の身体の接触による感染を避けるため一緒にお風呂に入るのは避けましょう。

● とびひ（伝染性膿疱瘡）

[症状]

汗も、虫刺され、湿疹などを引っ掻いた傷に細菌が入り込んで、かゆみを伴う水ぶくれやかさぶたをつくります。掻きむしることであつという間に周囲に広がります。

[治療]

以下の3つを行います。

- ①抗生物質を飲む。
- ②患部を清潔に保つため石鹸でよく洗う（浴槽には入らずシャワーのみ）。
* 消毒液を患部に塗っても菌は消えず、むしろかぶれを起こして治りが遅くなります。“消毒”ではなく水道水と石鹸で“洗浄”をしましょう。
- ③軟膏を塗ったガーゼで患部を覆って菌が周囲に広がらないようにする。

[予防]

患部をガーゼなどできちんと覆っていれば登校・登園は問題ありませんが、あまり広範囲の場合は休ませましょう。水泳は完全に治るまで禁止です。皮膚の傷口から菌が侵入すれば何回でもとびひにかかりますから、特に湿疹などのできやすいお子さんはその治療をしっかりしましょう。



浴槽に入るとお湯全体に菌が広がって患部以外の部分や兄弟へ感染する可能性があります。そのためお風呂は兄弟の後にして、浴槽には入らずシャワーとするのが望ましいです。タオルの共用はいけません。

